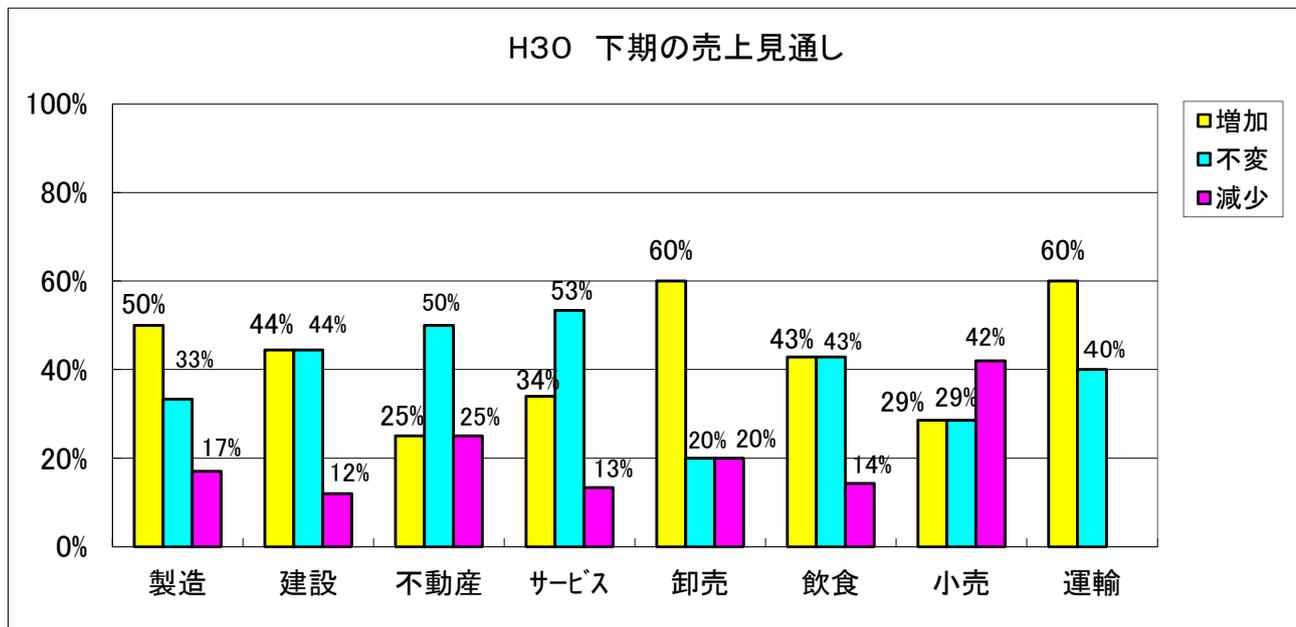


調査2 平成30年1月～6月を基準とした平成30年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

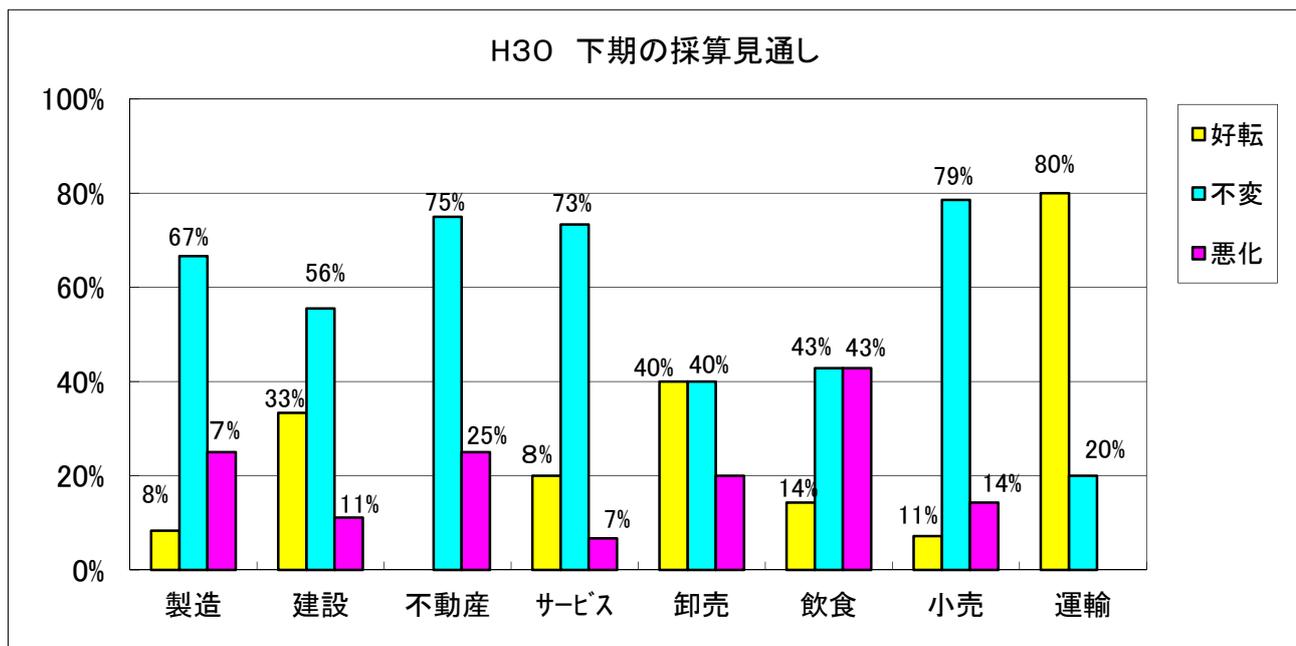
①売上見通し

全体でみると「増加」40%（前回20%）、「減少」20%（前回30%）と若干明るい見通しとなっている。業種別でみると「増加」する見通しが高い業種は、卸売業（60%）、建設業（60%）。一方、「減少」する見通しなのが小売業（42%）であった。



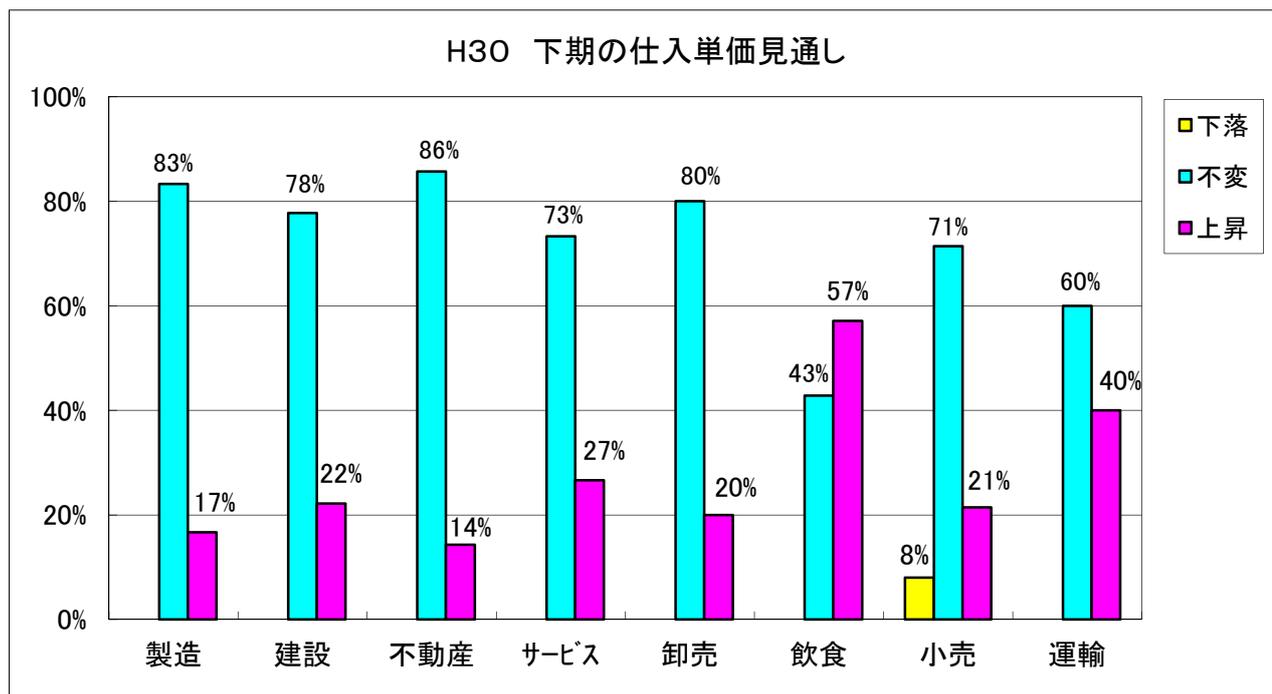
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が20%（前回14%）、「不変」が63%（前回60%）、「悪化」が17%（前回26%）となった。業種では、「好転」の見通しが高いのが運輸業（80%）でもっとも多かった。



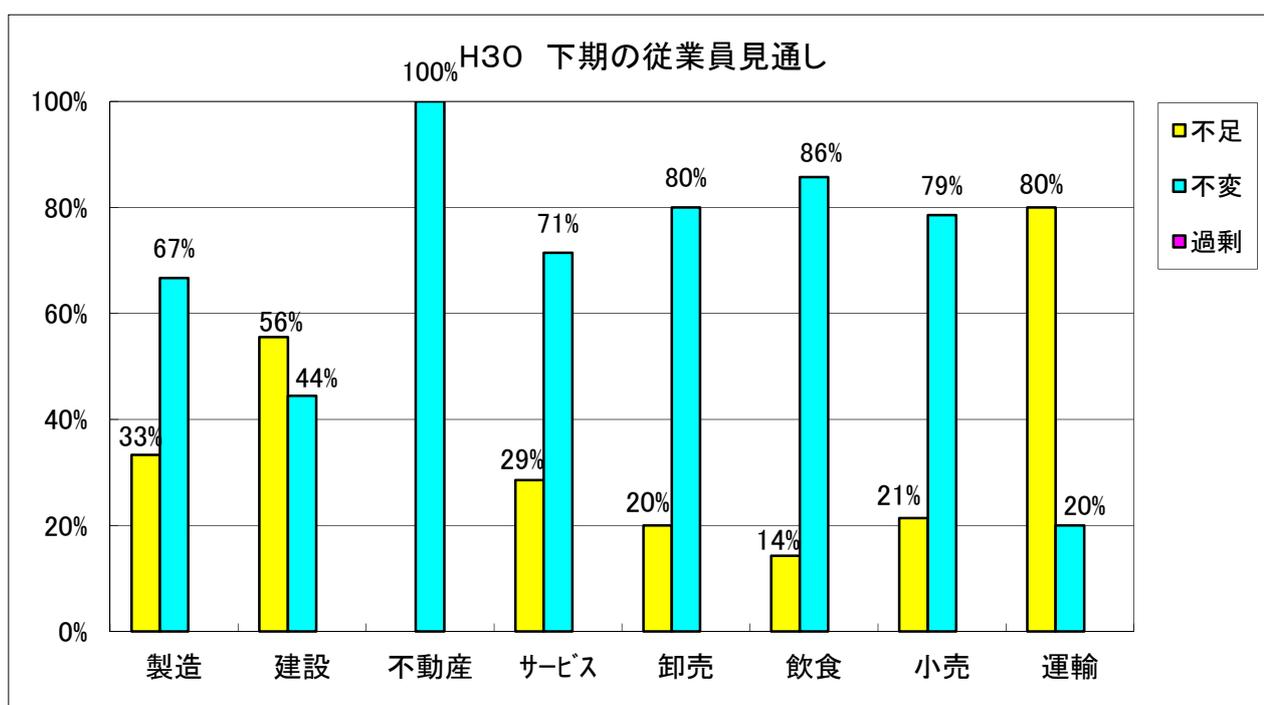
### ③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が73%（前回58%）と多い中、業種別では「上昇」が高いのは飲食業57%（前回70%）、運輸業40%（前回60%）であった。



### ④従業員の見通し

全体的には、「不足」が30%、「不変」が70%とであった。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業80%（前回100%）、建設業56%（前回50%）とかなり深刻な状況である。

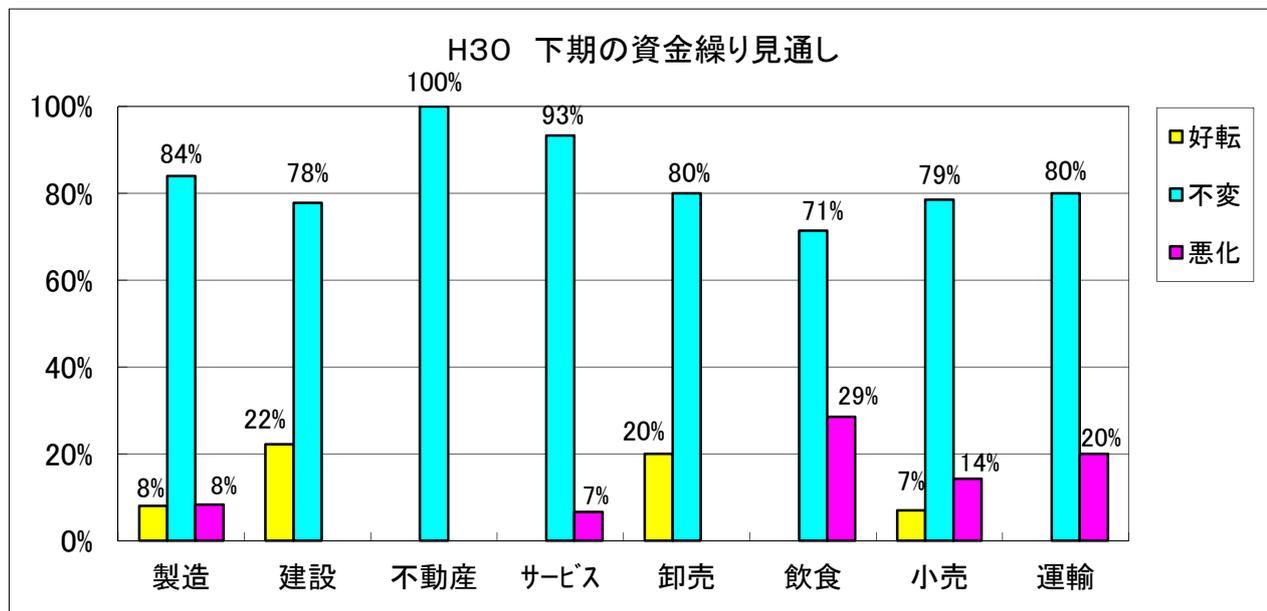


### ⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

### ⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が84%と多く、「悪化」が9%、「好転」が7%であった。資金繰りが「悪化」の見通しが高いのが飲食業29%（前回40%）、運輸業20%（前回20%）であった。



### ⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(59%)が多く、続いて「融資無し」(22%)、「緩やか」(15%)「厳しい」(4%)となっている。業種でみると、「緩やか」の回答が多かったのが運輸業(40%)、「厳しい」との回答が多かったのが卸売業(20%)であった。

